

【高齢者の現状 19】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

3 高齢者が生きる

(3) 感謝と決断

今生きていることに感謝をし、喜びを感じ、明日があることに感謝の気持ちがあれば、まず確かに生きていることです。自分のために生きているのであり、人のために生きているとうことは、本音の一番ではありません。この時間この時間を感じ、それが何かを感じれば、それで良いのではないのでしょうか。

不安を感じないことは無理であり、現在の社会ではあり得ないことです。あまり深刻に考えないで毎日を生きていくことが大切です。何かにする気持ちは楽になることかも知れませんが、今の日本人は不器用な気がします。宗教の信仰もその一つになるものですが、余りこだわりがある人が少ないようですので、何を心のするものにするかが課題となっています。

四国八十八箇所めぐりや、西国 33 箇所めぐりなどのものに興味を持っている人が現在は増えているような気がしますし、お寺・神社参りなども増えているような気がします。生活の苦しさと、楽しさをどういうふう的比重を持つていくのが鍵になります。身の回りにはいろんな不安要素があり、個人により一つ一つ解決することが求められている社会ですから。毎日の生活にハリを持たせ、寂しい思いをしないようにすることがとても大切な現実であり、それを避けてはだめな世の中です。いかに毎日、毎日の生活を楽しくするかを考えて、自分にあったリズムをつくり継続することが大切な今日です。

情報社会を自分のために利用し、生き抜いていく力を強く持つことが、本当に必要な時ですから、自分らしく生きるものを考えて実行してください。自分でやれることがあれば実行し、迷わないことが生き抜くための一つであると、昔から言われていますが、本当に今の世の中にとっては必要なことであり、負けているような時間は捨てて、前に向かって進むことが求められていますから、大切に貴重な時間を有意義に感じられるように、くいが残らないように前に向いた考え方で、一日一日を自分のリズムを持って過ごすことが結局は必要になってくると思いますので、自分のことであり、人の事でないことを意識し、生き抜いてみようではありませんか。それが感謝の気持ちであり、明日への道でもあると思います。